

## 第4回NARA万葉世界賞

### ■贈呈理由

ANTHONY V. LIMAN（アントニー V. リーマン）氏は、チェコ共和国における日本文学研究の第一人者である。ことにチェコ語ではじめて『万葉集』の全訳を行ったことで知られる。ほかにも、井伏鱒二「波：さざなみ軍記・ジョン万次郎漂流記」の翻訳では、最も優れた翻訳に与えられる「チェコ賞（ユングマン賞）」を受賞している。

2001年～2008年にかけて刊行された『万葉集』のチェコ語訳は、はじめてのチェコ語による全訳というだけでなく、日本国内における『万葉集』研究の最新の動向を踏まえた上で、自らの緻密な研究に基づいて、チェコ語詩としての完成度の高さをも追求した意欲的な書である。チェコ共和国の日本学研究者だけでなく、日本語や日本文化を知らない一般読者にも理解できるように配慮されている。今後、チェコ語圏の研究者が日本詩歌を理解する際に、必読の書となることは間違いない。

この『万葉集』全訳本の最大の特徴は、「異文化をどう翻訳するか」という永遠の命題に、正面から取り組んで稀有な成功をおさめているという点である。日本文化と中欧のチェコ文化とでは、根本的に異なる面が多々あり、単純に語彙を置き換えるだけでは十分な翻訳は成り立たない。異文化の本質をつかみ汲み上げるといった、困難な作業が必要となる。一方で、膨大な注釈を施した場合、専門の研究者はともかく、一般読者に広く読まれる本にはなり難い。学術的な正しさと詩としての美しさを両立させるには、極めて高度な研究と言語感覚が要求される。その点で、リーマン氏の翻訳は、研究者としての学究姿勢と詩人としての感性とが遺憾なく発揮された、たぐいまれな成果であるといえる。

なお、リーマン氏はトロント大学の教授として、次世代を担う研究者も多く育ててきた。また、長くカナダにおいて研究生活を送っていることから、本賞の受賞はチェコ語圏のみならず、カナダを中心とした英語圏にも多大な影響を与えることになるであろう。

よって、第4回「NARA 万葉世界賞」を、アントニー・リーマン氏に贈呈することが相応しいといえる。